

# 横浜平沼高校 かるた部 全国4位



五月の県大会で優勝を果たして出場した、7月の近江大会（小倉百人一首競技かるた 第47回全国高等学校選手権大会）にて、全国4位という結果を得ることができました。

二年ぶり、八回目の出場となった今回も、メンバーのうち、主将をはじめ、半分以上が高校から始めた生徒達でした。

昨年度、県予選での敗退となったとき、選手として敗北を飲んだ2年生二人は、今年は2年生とは思えない安定感で試合をリードしてくれました。

また、「強かった昨年団体」の敗退を目の当たりにし、葛藤を重ねながら努力した主将たち3年生が、見事に平沼かるた部をここまで連れてきてくれました。

全試合の結果は以下の通り。

愛知・旭丘高校に三勝二敗

長野・諏訪二葉高校に五勝

大阪・四天王寺高校に三勝二敗

千葉・市川高校に四勝一敗

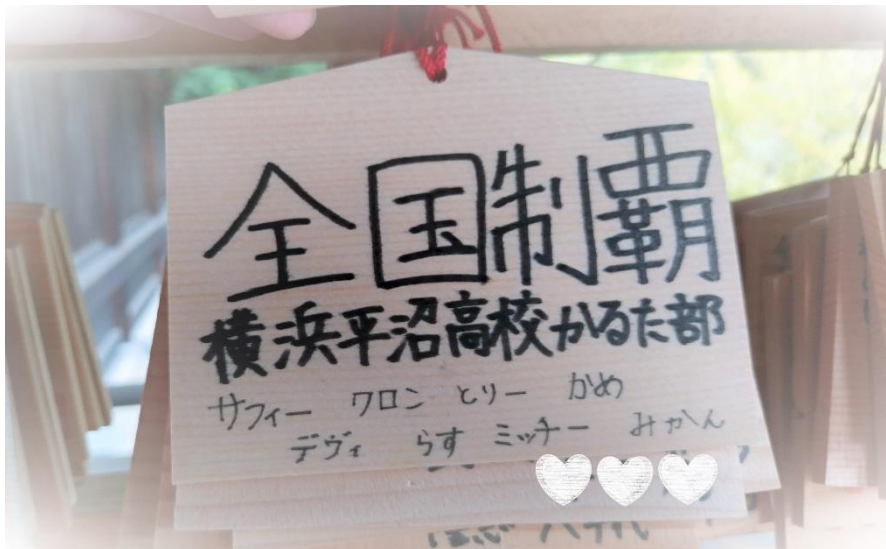
東京・関東第一高校に二勝三敗<準決勝>

大分・中津南高校に二勝三敗<3位決定戦>

※準決勝・決勝の様子は、全日本かるた協会 YouTube にて観ることができます。

※試合結果の詳細は、全日本かるた協会ホームページの大会速報に掲載されています。

## 開会式・抽選会



近江神宮勸学館にて抽選。H ブロックに決定しました。びわ湖大津館（旧琵琶湖ホテル本館）での試合となります。

近江神宮で、絵馬を書いて必勝祈願をしました。

## 予選リーグ 第一試合 旭丘高校

朝から非常に緊張している様子でした。会場が狭いため、応援には全員は入れず、3年生のみで見守りました。四将・六将が段位差のある相手に優位に立つ一方で、副将・五将は段位が上の相手に苦戦します。主将は同級相手となりました。試合前の緊張は、試合の中でなんとか感覚を取り戻したでしょうか。主将がここでしっかりと勝利を収めました。

## 予選リーグ 第二試合 諏訪二葉高校

初戦を制して、良い調子で迎えた二戦目は、全員が勝利。互いの主将・副将が当たる席次となりましたが、段位の差をしっかりと結果に反映することが出来ました。



## 予選リーグ 第三試合 四天王寺高校

段位だけ見れば若干の優位があるかという試合でした。互いのA級が当たらない席次で、2年生A級の四将が軽快に取りを重ねていきます。同じく2年生A級の六将の相手は副将。抜き差しならない状況が続きながらも、終始落ち着いているように見えました。3年生の副将は、同級の試合となりました。部員から「冷静で綺麗な取りをする」と賞賛される副将は、リードされる局面でも慌てる様子は見せません。主将・五将が厳しい試合の中、この3人がきっちり勝利を収めました。

これをもって、予選リーグ H ブロックを勝ち抜き、ベスト8となりました。決勝リーグの会場、近江勧学館に進むことが出来ました。



横浜平沼高校の歴史を振り返ると、近江大会出場は、第 27 回(2005)、第 28 回(2006)、第 33 回(2011)、第 38 回(2016)、第 41 回(2019)、第 44 回(2022)、第 45 回(2023)、第 47 回(2025)と、8度目、一昨年に果たした準優勝が最高実績となります。このときの先輩が会場に駆けつけてくれました。選手達にはこれ以上無い激励となったでしょう。

#### 決勝リーグ 第四試合 市川高校

A級の主将・副将を擁する市川高校との試合。四将・五将がこれに当たります。緊張感もありましたが、近江勤学館まで勝ち上がった勢いに乗って、澆刺とした声かけが交わされる、横浜平沼高校らしい試合であったと思います。五将が10枚差で敗れますが、同時に主将・副将が勝ちの宣言を上げ、チームの士気を上げます。続いて六将が8枚差で勝利。最後は四将がA級副将を2枚差で制しました。

#### 決勝リーグ 第五試合 関東第一高校

ここを勝ち抜けば、121期の実績に並ぶ、第五試合、準決勝戦。こちらはA級2人を擁し、相手は全員B級ですが、とはいえ、常勝校を相手に緊張も高まります。その中でリードを広げたのは四将で、A級としての実力を見せつけ、16枚差で圧勝しました。あと2勝と、それだけで言えばリードをする平沼ですが、戦況は厳しく、一席から四席までは膠着状態が続きます。終盤、残り10枚を切ってきたところで、相手主将と対していた五将がじりじりと引き離され、6枚差で惜敗。両校互いに一勝となったところで、5枚差で六将が破れ、同じく5枚差で副将が勝利しました。最後の1勝は平沼主将と関一副将に委ねられましたが、4枚差で主将が破れ、2勝3敗で平沼が敗退となりました。

#### 決勝リーグ 第六試合 中津南高校

この代の団体は、県冬団体優勝、県近江予選優勝と、勝ち続けてきたチームですので、敗退が決まってからの3位決定戦はこれまでに経験のない試合となりました。席次は、互いに主将一副将の対戦。しかし、連戦の疲れか、敗戦の衝撃か、両校選手互いに抱えるものは勿論同じですが、それらをこの短時間で超克するには一歩及ばず。主将・副将には珍しく、勝ち筋を掴めないまま10枚以上の差をつけられての負けとなりました。

開始から一貫して姿勢を崩さなかったのがA級の四将でした。ここまで全勝で辿り着き、加えてこの最終試合でも周囲に気を配って声をかけ、団体を支える姿を見せました。普段はチームメイトにからかわれる様子を見ることが多いですが、この近江大会では、非常に頼もしい存在です。C級を相手にしっかり束で勝利しました。

同じくA級の六将は、B級を相手に序盤は大きく差をつけられました。準決勝戦での負けの影響があるか、と案じられましたが、中盤に一気に立て直し、最後は6枚差で勝利しました。準決勝の一敗を除いて負け無しであり、周囲からは準決勝での勝利も期待されていました。その分、重たい一敗となってしまうだろうところを、持ち直して勝利をもぎ取ったのはさすがでした。

最後は同級対決となった五将に皆の視線が集まります。序盤から拮抗が続き、どちらの勝利も読めない試合でしたが、二勝二敗の重圧で、なかなか思うような取りが出来なかったのかもしれませんが、最後はお手付きで敗れました。今大会では、第一試合はA級、第三・第四試合はA級主将、準決勝では主将を相手にしてきました。この一日を乗り越えて、来年は更に成長した姿を見せてくれることでしょう。

主将は1年生の頃からこの場所を夢見てきました。最後の二敗が堪えるでしょうが、ここまで勝ちを経てこそその4位です。生徒達にはぜひ胸を張り、誇りに思ってもらいたいと思います。保護者の皆様、コーチの山内さん、指導や応援をしてくれた卒業生のみなさん、ありがとうございました。



**結果**

**小倉百人一首競技かるた 第47回全国高等学校選手権大会**

**団体戦 4位**

主将 奥田 彩稀	副将 青木 仁美
三将 芝村 優花	四将 前田 啓輔
五将 吉野 心逢	六将 田淵 友也
七将 道脇 優空	八将 板倉 友理加

愛知 旭丘高校	三勝二敗	
長野 諏訪二葉高校	五勝	
大阪 四天王寺高校	三勝二敗	…決勝トーナメント進出決定
千葉 市川高校	三勝二敗	
東京 関東第一高校	二勝三敗	…三位決定戦へ
大分 中津南高校	二勝三敗	…全国4位

**個人戦 B級3位 中川 碧 C級3位 佐塚 美咲**  
**D級4位 井口 桜希**